

## 1学期の出来事より④ 今年も「無事に」水泳の授業を終えることができました



前号では、1学期の体力づくりについて書きました。本荘小の課題の一つに体力向上があります。ただ、小規模校ゆえに一人一人にあった体力向上プランを考えることができます。水泳の学習も同じです。本荘小では、1、2年生と3、4、5、6年生に分かれて水泳の合同授業を行っています。1、2年では基本、1年担任、2年担任、なかよし学級担任の3人が指導を行います。1、2年生の合計人数が22人ですので、基本的に先生1人当たり7人前後、3人のうち1人が個別指導に回ったにしても1人当たり10人くらいの割合になります。上学年でも同じです。3～6年生の合計が36人です。そこに3年担任、4年担任、5年担任、6年担任、なかよし学級担任、空き時間の専科と最大6人体制です。上学年でも1人当たり9人と個別指導の割合が高いことがわかります。平均的な1学年3クラスの学校では、学年合計が71～105人です（熊本市は35人学級なので）学年の先生3人+協力できる先生としても4人です。1人あたりは、18人～26人となります。いかに本荘小が小規模校としてのよさを指導にいかしているかがおわかりになるかと思います。

毎年のプール開きの時に、必ず子どもたちに語るの「生きる力として水泳を学ぶこと」です。災害や何か身の危険があったときに「自分の命を自分で守る」ことができるように、水泳の学習があることを伝えています。ですので、単にタイムを短くするとか、他の人より早く泳ぐことが目的ではなく、「自分の力を伸ばすこと」が大事であることを指導しています。

（裏面に続きます）

学習指導要領では、水泳系の学習内容を、低学年を「水遊び」、中学年を「浮く・泳ぐ運動」、高学年からを「水泳」で構成しています。中学年までは、水遊びなどで水に慣れ親しむことや、水に浮く・泳ぐなどの経験を十分にしておくことを重視し、高学年からの水泳の学習では、「クロール」、「平泳ぎ」などの泳法を取扱い、校種・学年ごとのねらいをふまえて、それぞれの泳法の指導を段階的に行うことが明記されています。

本校での水泳学習も、小学校低学年の「水遊び」は、水に慣れること、顔をつけることができること等を主眼に、運動経験の差などを考慮し、みんなが楽しく行えるようにていねいに行っています。ねらいをもって楽しい「水遊び」を学習できるようにし、もぐったり浮いたりすることを楽しく行う中で、動きが身に付くように指導しています。また、バブリングなどの呼吸の仕方を遊びの中に取り入れたり、全身の力を抜いて浮く心地よさを経験できるようにしたりして、浮いて進む運動遊びにつなげています。

上学年では、小学校3、4年生は「浮く・泳ぐ運動」で、いろいろな浮き方を楽しみ、全身の力を抜いて浮くことができるようにします。特に、泳ぎの基本となる「け伸び」は、ていねいに指導し、手と足のバランスのよい泳ぎ、呼吸をしておきの初歩的な泳ぎにつなげています。5、6年生では、「クロール」や「平泳ぎ」で心地よく泳いだり、泳ぐ距離を伸ばしたりできるようにします。手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができるように、泳ぎのポイントを指導しています。また、水中からのスタートを指導するとともに、実態に応じて「背泳ぎ」を加えて指導しています。さらに、合同授業のよさをいかして、子どもたちの実態をもとにコース別学習を実施し、学年の枠を越えて、一人一人の力を伸ばそうとしてきました。

今年度のプール納めも多くの保護者の皆様の参観をいただき、子どもたちが張り切って自己記録の更新に挑戦したり、自分のベストな泳ぎを披露したりしていました。校長として、一番うれしく感じた子どもたちの姿でした。

最後になりますが、今年度も「無事に」水泳学習のシーズンを終えることができたことが一番の成果だと思っています。何気ない言葉ですが、「無事に」という言葉は大変重い言葉だと受け止めています。子どもたちが笑顔で学んでいたシーズンを振り返りながら、「命」の重さを実感している校長先生でした。夏休みも水の事故などがないように案じております。(校長)

## 校長先生の虫眼鏡 「プール納めの様子」

楽しそうに足バタをする低学年の子どもたち

参観者が見守る中、力泳する子どもたち



緊張のスタート



多くのご参観ありがとうございました。

